

ブログより

百田 陽一



今回もブログ「I Z A!」に出した世迷いごとの中から出稿することをお許しくください。アクセス数は5月21日現在で約9500です。

○ずれる日本、安倍政権

(二〇一三年五月十五日)

アベノミクスですか。一つテレビ報道で気づいたのですが、スバル、富士重工の車の販売がすこぶるいいのもアベノミクスの一つとして紹介されていました。しかし、これは違うでしょう。私が気づいた具体的な例として言えば、群馬かどこかの富士重工の工場は大分

前から繰り返し、短期従業員を募集しているのを朝日新聞の求人広告で見っていました。これは相当に忙しいのだなと思いました。マイカーをある板金業者に車検に出した際、その従業員と立ち話になり、富士重工のある車種がアメリカで物凄い人気で売れていると、説明してくれました。しかし、その富士重工も結局、内実はトヨタ資本に組み込まれつつあるそうです。兎に角安倍登場のかなりまえから富士重工の車はその性能を買われてでしょうが、大人気なのです。

アベノミクスの実態はなんなのでしよう。お金を思い切ってふんだんに市場にばらまくことですか。あのバナナのたき売りが似合いです。あんな日銀総裁、黒田とか言う、あのおっさんがやっていることは何ですか。アメリカのFRBのバーナンキの真似をしてるだけと違いますか。円安で株高となり個人投資家が

株に関心を寄せ始めていますが、いずれ大きな損失を被るのが落ちでしょう。最近、朝日新聞に内田樹（たつる）氏が寄稿していましたが、ケネディの有名な演説をもじって「グローバル企業が君に何をしてくれるかではなく、グローバル企業が君のために君が何をできるかを問いたまえ」と言うことである、と喝破していました。要するに国民、国家にあれもしてくれ、これもと要求し続け、実態は海外に移転し、無国籍企業化している大企業とは何なのか。来年度の営業利益が1兆8000億円というトヨタ自動車。それがどうしたの？すこしは国民にそのお裾分けが及ぶの？ありえないでしょう。以前、愛知万博へロータリークラブの仲間とでかけた際、東海地方のロータリアンにトヨタの評判を聞いたら決して芳しいものではありませんでした。地味な社風、それはそれでいいでしょう。しかし、

あれだけの大きな企業になったトヨタが企業として社会貢献も熱心にやっているという雰囲気は全く伝わってきません。まあせいぜいアメリカでもどこでも車を売ってもらうてください、と国民の一人としては醒めた目で見つめるしか手がありません。

話はがらりと変わりますが、韓国の朴大統領がオバマ大統領と膝詰で話し合っているシーンをテレビ報道で見ました。オバマさんは本気で、朴さんと語り合っていた。しかも楽しそうに。しかし、先だつての安倍さんとのとき、オバマ氏の顔つき、どこか戸惑いがあり、虚ろな感じがしました。明らかに朴と安倍では違いました。もちろん、オバマ氏が正しくて、気に入ってもらわなければ、だめだなんてこれっぽっちも思いません。オバマ氏にとつて話すに値する相手かどうかの差だと思えます。朴さんとは北朝鮮問題が差し迫っ

ていましたが、それだけではない、と思えます。話し合うにたる相手だったからでしょう。安倍さんはどうか。いまごろ集団的自衛権なんか持ち出しても、世界の動きとずれまくっているのです。

アメリカは中国と向き合って何とかが、世界ナンバー1の地位を保ちたい、それが最大の関心事でしょう。しかし、その願望もかなり雲行きが怪しい、と言うのが正直なところでしょう。そういう大状況の中で日本は自らの真の国益と、アジアの平和、発展にどう取り組めるかを自らの足で情報をセンスし、アメリカのためなんかではなく、日本独自のスタンスを確立して前に進むべきでしょう。そうすれば、アメリカもそれを評価し、協調していくことになるかも知れません。



○負担軽減？

(二〇一三年四月六日)

負担軽減という言葉を聞くたびに、怒りとむなしさがこみあげてくる。沖縄の米軍基地問題。今日2015年4月5日に安倍首相とルース米国大使の間で普天間基地と沖縄南部に点在する米軍基地の返還計画が明らかにされた。いずれも9年後かまたはそれ以降になどと、言う期限を発表したのだ。ついこの間の民主党政権時には、普天間基地の移転と切り離してそれ以外の5か所ぐらいの基地は早期に返還することになっていたはずだが、自民党が政権に復帰したためか、そんな話はないことになり、普天間の辺野古への移転が実現したら南部の諸基地を返還するという具合に後退した。

これは何なのか。米国、米軍の言うことをそこまで聞かなければならないのか。この後

退の背景には、むしろ日本側にあるような気がしてならない。つまり外務省は沖縄の基地返還なんかどうでもいい、それより日米同盟にひびをいれるようなことは極力さけるべきだ、という悪名高い腰抜け外交で知られているからだ。事実その通りの存在だ。だから負担軽減という言葉を平気で連発する。民主党政権もこの点では、同罪だった。

つまり完全にその他の基地返還は、普天間移転の取引材料に使われ始めた。さらに、那覇空港の滑走路をふやすことも普天間移転と絡めている。きたない。やり方が。つまり同じ日本人でも沖縄人と本土の日本人とは明白な差別のラインが横たわっている。これは今に始まったことではない。島津の琉球処分から、つまり薩摩藩が琉球王国を植民地にして中国との交易のあがりを搾取し、黒砂糖などの物産からも巨利を得て、それが幕末の薩

摩藩の原動力となり、明治維新へとなだれ込んだことは疑うべくもない歴史的事実なのだ。かくして沖縄県民、琉球人の苦難はつづきそうだ。しかし、だからこそ、仲井真知事は決して辺野古の埋め立てを認めることなく、辺野古の海を、沖縄の自然を、守って欲しい。本土の日本人もこれを支援することは当然だと思う。

○初めて千鳥ヶ淵へ

(二〇一三年三月二十五日)

大方の天気予報で先週の土曜日、3月23日が東京の花見のピーク、つまり満開と言うことで、初めて花見の聖地、千鳥ヶ淵にでかけた。テレビニュースの花見の定番の場所なので皇居の周囲を回ればわかるだろう、まず靖国神社に行こう、と地下鉄半蔵門線の九段下で下車、すし店で腹ごしらえをしたあと、

歩き始めた。すでに歩道は花見客でいっぱい。靖国神社にいくまでもなく、すでに千鳥ヶ淵に足を踏み入れていた。さすがに濠端に連なる260本の桜は見事だった。

携帯電話で写真を撮ったりしたが、ふと、千鳥ヶ淵と言えば、無名戦士の墓があるはずだ、と思い、雑踏警備のガードマン氏にその場所を聞いても要領を得ない。やっと何度か場所をたずねながら「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」に辿りついた。1本100円の菊の花を白と黄の2本買い求め、祭壇に献花して手を合わせしばし合掌。

かなり多くのひとが墓苑に訪れ、同じように合掌しては立ち去っていた。しかし、圧倒的に大勢の花見客はこの墓苑に気づくこともなく、通り過ぎていた。それを非難するのは酷かも知れない。墓苑の説明板によると、太平洋戦争、日中戦争でなくなった兵士、軍属、

一般邦人とみられる無名の遺骨が祭られているそうだ。アツツ島からモンゴル、インド・ビルマ（ミャンマー）、パプアニューギニアに至る広範な地域でご承知の通りわれら日本人の同胞は死んでいった。その数240万人。

終戦記念日などでこの墓苑はニュースで取り上げられる。しかし、せっかくいい場所にあるこの墓苑をもっと広く国民は訪れ、自らに問いかける場、そんな意味での聖地にすべきではないだろうか。政府も参拝すれば、中国、韓国とすぐトラブル靖国よりこの墓苑をもっと重視して国民が沈思黙考する場にすべきではないか。ハワイを訪れたとき、私は真珠湾（パールハーバー）に最初にでかけた。旧日本軍により撃沈された戦艦アリゾナの艦上にしつらえられた戦死者を刻した名簿板に見入ったものだ。その送り迎えは米海軍のラウンチが公務として行っている。近くの軍人の

墓を観光バスで訪れた際も乗客をバスから降ろさせず、バスから静かに墓を見守った。そこには戦死者を弔う国家としての責任感にじみ出ていた。この点は米国の方が立派と言わざるをえない。もっともそこをないがしろにすれば、移民で成り立っているあの国は持たないとも言える。

○ゼロ・ダーク・サーティ

(二〇一三年三月十四日)

これは最近、上映されたアメリカ映画のタイトルです。どんな意味かと言うと「深夜0:30を指す軍事用語」だそうです。で、その時間がどうしたのかというと、オサマ・ビン・ラディンに対する捕縛作戦の決行時間です。作戦の暗号名はジェロニモ。アメリカ大陸の先住民の酋長の名前ですね。どこか懐かしい。そう、こんな先住民を殺戮して現在のアメリカ

カ合衆国はあるのです。

タイムの2月4日号にこの映画の監督、キヤスリン・ビグローの特集(リリー・ローズマン)が掲載されていました。それによると、ビグローさんは、スリムで身長は180センチ超で、黒いセーターにジーパン姿。61歳だが、驚くほど若い、そして温かい優雅さがないじみ出た女性。前作はハート・ロッカーと聞けば、なるほど、と言う感じ。

映画の内容は、マヤというCIAの女性分析官が、いろいろ苦労した末、ビン・ラディンの居所を突き止める。すぐにはこの情報は受け入れられず、やつと2011年5月、パキスタンのアボタバッドの隠れ家を米軍の特殊任務部隊がヘリ2機で急襲、ビン・ラディンを殺害、死体をヘリに積み、作戦成功という歴史的事実を再現したものだ。冒頭の30分近くはCIAの仲間がイスラム教徒を拷問し

て情報を聞き出そうとする場面の連続でかなり気分が悪くなる。圧巻はやはりビン・ラディンの殺害シーン。確かにこのようにして殺したのだから、と説得力は十分。しかし、わたしの脳裏にかすめたものはパキスタンの雑踏の中を携帯電話の電波を頼りにビン・ラディンの家に入り込んでいる男を追うシーンのその雑踏、つまりアジア的な混沌がもつエネルギーギッシュさの魅力でした。また、車を運転するマヤが宿舎近くで襲われそうになり、やっと宿舎に逃げ込むシーンで、その車がトヨタのマークがついており、今私が乗っているベルタのようだ、というつまらないことが気になりました。ビッグロー監督も映画を観た人それぞれが何か感じ、考えてくれればいい、ということのようです。

ビン・ラディンの遺骸の映像を見つめるオバマ大統領らトップ。その一人の当時の國務

長官・ヒラリー・クリントン氏の口を手で覆うようなシーンが印象的でしたが、結局、アメリカはビン・ラディンを殺害したことで問題は解決した、とはまさか思っていないでしょう。日本人一〇人が殺害されたついであいだのアルジェリアの事件を引き合いに出すまでもなく、ビン・ラディンの存在、影響力は生き続けるに違いないからです。

○ケリー&ヘーゲル

(二〇一三年二月二十二日)

2日付の朝日新聞によると、2期目のオバマ政権を担う國務長官にジョン・ケリー氏が国防長官にチャック・ヘーゲル氏がそれぞれ就任する。二人に共通しているのは中国重視だ。「中国が興隆し、地域全体も成長している。最大の機会と挑戦がある地域に関与しなければならぬ」(1月31日の上院軍事委員会

ヘーゲル氏」という理由に尽きるだろう。二人とも率直である。

一方のケリー氏も1月24日の上院外交委員会で、中国の軍拡路線への対抗策として米軍が進めるアジア太平洋地域での態勢強化については「私はまだ、不可欠だとは確信していない」と慎重だ。さらに、中国からみたら、「米国は我々を困い込もうとしているのか」と言うだろう。我々は思慮深く進まなければならぬ、とさえ言っている。

ヘーゲル氏は1月31日の公聴会で、共和党上院議員としてイラクの米軍増派に反対したことを問われ「あの政策は、我々が戦場に送った男女の命に値しただろうか」と判断の正しさを力説した。

二人ともベトナム戦争に従軍、ケリー氏は民主党上院議員で04年の大統領選挙で、ブッシュ前大統領に敗れた。ヘーゲル氏は元共

和党上院議員だが、ブッシュ前政権のイラク政策を批判した。この二人が言っていることはまともだ。この二人に仕事をさせるオバマ氏も2期目の在り方はかなり違ってくるのではないだろうか。安倍政権にこの変化にいい意味で対応できる力量があるのだろうか。潮目が変わろうとしているのに日本は旧態依然たる日米安保重視の一点張りで、なんの芸もなく、世界の動きから取り残されるのが一番怖いことだ。自民党大丈夫か。民主党をなじるだけではすまない。レベルを上げて世界を相手にした外交を展開してもらいたい

〇ああ999円！

(二〇一三年一月二〇日)

999円って何の値段？600リットルのウイスキーの値段です。高くないですよ。いや、安いですよ。最近、私が飲んでいる

ウイスキーの値段です。

つい数年前の現役のころは、国産のウイスキーでも山崎とか、あとはお決まりのオールドパー、シーバズリーガルなどを家で寝る前などに飲んでいたものです。しかし、年金生活の身にはそんな酒、飲む気にもなりません。そこで出合ったのがこのウイスキーなのです。

この酒、キリンの富士山麓です。こないだまで九州にいたのですが、この銘柄知りませんでした。なぜ知ったか？生麦事件って知っています。幕末に大名行列の邪魔をした、と言うよりよく事情も知らず、行列に敬意を払わなかったイギリス人の馬に乗った男を薩摩の示現流で切り殺した事件です。結局、これが薩英戦争につながった出来事です。

この事件現場が今住んでいるところからそう遠くないので、見学に出かけました。旧東海道沿いに殺傷現場とこの男が馬で横浜側に

数百メートル走ったところで落馬し、絶命した現場を見てきました。いずれも看板や記念碑があるだけのものでしたが、やはり日本の行方に大きな影響を及ぼした事件だけに一度は訪れてみたかったわけです。そのあと近くの喫茶店に入りました。そこで店の棚にあったのがこの富士山麓でした。夕方だったので軽食とともにこのウイスキーを2杯飲みました。

近くにキリンのビアガーデンもあるそうで、その関係もあってかこの酒が置いてあったのでしょう。生麦事件についてはまた、別の機会に詳しく触れたいと思います。とにかくデフレ時代を生き抜くためには、見栄を捨て、一円でも安いものを買うそんな癖がつきそうですね。



○自動車ぶったくり税、すぐに廃止を

(二〇一三年一月十二日)

自動車取得税と自動車重量税。いわゆる強制保険の自賠責それに任意保険。ガソリンを買えば、法外なガソリン税。車を所有するということは、この日本という国家では大変な負担を迫られる。

都会のサラリーマンは車を持たない方がいい。これに駐車場代がかかるから。よほどお金に余裕がある人、あるいは仕事でもたないと極めて不便をかこつ人は持つだろう。しかし、地方では車を持つと便利だし、使い勝手もいい。さらに、限界集落と呼ばれる山間部では車の存在は死活問題とさえ言える。

で、自民党の自動車議員連盟が10日の総会で自動車取得税と自動車重量税を消費税率が8%に上がる来年4月までに廃止することなどを決議した。茂木経済産業大臣もこの二

つの自動車関連税を廃止すべく財務省と話し合うと言っている。一方、保険業界からは自賠責の支払いが増えていることを理由に15%もの値上げを主張している。待ったなしであげるにちがいない。われわれ庶民のユーザーは、取得税などが廃止されないと、車を手放すケースが増えそうだ。特に、首都圏などで。

自動車業界は当然そういう危機感を持っており、その意を受けて自民党は動こうとしているのだろう。この際、自民でも、民主でも構わない。とにかく、取りすぎの税金を廃止してくれ。取りやすいところから取る。という安易な税体系に財務省はいつまでかまけているつもりか。重量税は地方の税金になるので、総務省が難色を示すなどこの問題はどうか転ぶかわからない。

それにしても民主党はこれらの自動車関連

税のどれかを実現しておけば、選挙の結果も少しは違っただろうに。テレ朝の人気番組、

「相棒」の杉下右京風に言えば「野田さん(前首相)は財務省の puppet (傀儡、あやつり人形)だったので、手をつけられなかったのでしようねえ」ということでしょうか。

○安倍さん、何を急ぐんですか？

アメリカ行きを(二〇一三年一月八日)

安倍晋三首相のアメリカ訪問がうまくセツトできないようだ。首相就任前の昨年12月18日のオバマ大統領との電話協議で1月中にはアメリカ訪問をと意気込んでいた首相だが、いざ日程を詰めると、1月、つまり今月中の訪問はむずかしそうだ、という。

新聞報道によると、外務省の河相周夫・事務次官が7日にも安倍外交の説明と日程調整のため、訪米するそうだが、そんなことはワ

シントンの日本大使館にやらせれば、すむことでしょう。大体、財政の崖問題で苦しんでいたオバマさんは21日に就任式とか。日本の何ら進展も重要な懸案もない指導者にあいさつ、顔見世程度の訪問に付き合いたくないのが向こうの本音だろう。駐米日本大使館はその辺の事情をなぜ直言しないのか。さらに、朝日新聞の7日朝刊によると、外務省幹部は「大統領は会談で具体的な成果を望んでいる」としているそうだ。この発言のニュアンスはわからないが、「だから急いで行くな」と言いたいのなら理解できるが、アメリカ側の気持ちを忖度して具体的成果、これはTPP参加問題と普天間の移設問題を指すようだが、お土産に持参しないと、会いたくもない、という意味を示唆しているのなら許しがたいことだ。

民主党が日米関係を悪化させた、それを一

日でも早くお伺いして怒りを収めてもらおう、というのが安倍首相の思いだとすると、そんな奴隷根性をあなたはまだ続けるんですか、と言いたい。あなたの祖父、岸信介・元首相は60年安保闘争で敵役を演じ、悪の代名詞みたいなしばらく言われたけれど、最近、何かで聞いたが、じつはアメリカが警戒し、嫌がったそうだ。あなたの祖父は。何の問題についてかは忘れたが、つまり岸信介も骨がある面をもっていた、ということだ。安倍さん。何かお土産なんていつまでも日本の代表者が言っているのはダメ。そうではなく、率直に日本の方向性について語り、協調できる点については一緒にやって行こう、と論じ合いなさいよ。真剣に。へらへら意味不明の笑顔をかべるのではなく。そうすればオバマだって真剣に話すはず。だから訪米するのはいいが、それは時期の問題ではなく、訪問するにたる

内容を語り合えるかどうかに、かかっているということですよ。

○嘉田さん、このまま瓦解ですか？

(二〇一三年一月五日)

嘉田さん、このまま国政から遠ざかるつもりですか。それはあなたに卒原発を実現してくれる、と大いに期待した人々を裏切ることになりません。必ず出番は来ます。執拗に反原発を貫いてください。それにしても近江の国の人たちは、心が狭いですね。わが知事が国政でも一石を投じるのを応援してもいいのではないのでしょうか。

もつとも二足のわらじが上策かどうかは、確かに疑問ですね。知事の任期切れとともに知事を辞職し、参議院議員に立候補して当選を目指してください。

嘉田というカードを切った小沢さんの感

覚は、やはり凄いですね。しかし、余りにも時間がなさすぎた。原発の可否が選挙のメインテーマにはならなかった。それはやっぱり、景気回復、雇用の回復が差し迫った問題です。これは今回に限ったことではありません。小沢さんの窮余の一策が不発に終わったということでしょう。そして惨敗。そして何があったのか、党の分裂。辞任表明。冷徹な政治の有り様は善良なる国民にはついていけません。それでも原発の先頭に立つ政治グループとして地道に活動を続けてください。嘉田さん。国民の少なからぬ層はそれを待ち望んでいません。

○タカ派路線を封印、現実路線ですね

(二〇一二年十二月二十二日)

安倍総裁、なにかと矢継ぎ早に手をうちますね。首班指名という通過儀式を待たずに必

要なことをやる、というのはいいことです。韓国に初の女性大統領、パク・クネ氏が登場するや竹島の政府記念式典を来年はしないことに決め、日韓議連の額賀福志郎元財務相を韓国に派遣することを表明するなど野田政権とは大違いですね。野田さんは消費税で身も心も奪われ、外交どころじゃないゆう感じ。また、下手に対ロシアの領土問題などに着手して欲しくない感じすらあったですね。

安倍さんは選挙まえの大上段に構えた右寄り路線には、当面、踏み込まず、常識的で大方の賛成を得られそうなソフトでしかも機を逃さない、ある意味理想的な路線を走るのかのような期待を抱かせますね。もちろん、いつ牙をむくかは、わかりませんが。

片や日本未来の党の嘉田代表はというと、社民からきた阿部知子氏を共同代表として起用することを検討しているそうだ。女性代表

の双頭作戦いいんじゃないでしょうか。それと滋賀の知事は辞め、参議院選に出て国会議員になった方がいいでしょう。民主の代表選びは難航しそうですね。ここはもう岡田副総理をズバリ選んで、息の長い地道な取り組みをするべきでしょう。

○民主はなぜ大敗したのか。

(二〇一二年十二月十九日)

民主の落選組が野田さんの解散時期が大敗の原因だ、と言いついていたのは醜かった。これは岡田副総理が言っていたように「解散の時期が問題ではない。選挙は議員の自己責任だ。他人に責任を転嫁できるものはない」と言うような主旨の発言が正しいと思う。

鳩山、菅、野田の3人の首相に共通して感じたのは、首相補佐官というか、側近のブレ

ーンがきちんと機能していなかったことだ。首相のそばに立ってテレビカメラに映っていればいい、というものじゃないだろう。でも、側近を責めるよりもそういう布陣をよしとした、首相本人のやはり責任だろうか。もっと学者を含めて広く人材を吟味すべきだろう。

野田さんは消費税さえ実現できればいいという確信犯だったのだろうか。真の意味で情報公開をしなかった。国民なんてどうでもいい、という感じ。それに米国にたいする服従ぶりは酷かった。自民党でもここまでなかった。落選後、藤村官房長官は「みなさんに理解していただけなかった」と言っていたが、その通り。率直さに欠けていた。自分たちはそんなつもりではなかった、といっても通用しない。それでも民主党よ二大政党の一翼を担う政党としてぜひ立ち直って欲しい。国民はそれを期待しているはずだ。

○続・民主党大敗のわけ

(二〇一二年十二月十九日)

もうさんざん指摘されていることだが、だからだと民主のまづかった点をあげつらうとまず、マニフェスト総崩れ。しかし、よく考えてみると、選挙の際の公約を守らない、果たさないというのは日本のある意味、常識だったのじゃない。それをマニフェストという言葉をつかうと、絶対守らなきやという感じになるのは少し、違うのでは。manifestを辞書で引くと、「明示する」という程度のことです。「*を積荷目録に載せる」という意味もありもつと軽い感じだ。アジェンダという言葉を繰り返すアジェンダおじさんの渡辺みんなの党代表ともども意味がしっくりと伝わらない外国の言葉遊びは有害な気がする。

でもそのマニフェストの中で、子ども手当や農家への戸別補償は秀逸だった。農協もこ

れには困っていたはずだ。子ども手当は文句なしに歓迎されていたはずだ。だからこれが金額を大幅に減らされ、おかしくなったとき母親や父親たちはもつと声をあげるべきだった。ドライバーにとつて朗報だった高速道路の無料化、ガソリン税、自動車重量税の二重取りをただそうという試みなどいいところを突いていたのに生煮えになって結局、政策を貫けない政党という印象だけがのこった。事業仕分もことの成否は別としていい試みだった。これらのうちどれか一つでも初志貫徹しておれば、有権者に強いメッセージを刷り込めたのに残念だ。

小沢切りがやはり大きな分岐点だった。よくわからない裁判を抱え、苦しんでいた小沢氏にたいして冷たい仕打ちだった。小沢氏の身から出た錆という面もつよくある。彼の問題点はもちろんある。それでも彼を切ればい

いんだ、という思いに追い込まれ、それが結局は民主の命取りになった。そのあともただらと離党者が続いたのでは、有権者が素直に民主を支持できなかったのも当然だ。まさに解党的というより解党寸前に追い詰められた党の再生にいかに着手するか、辛くて凍てついた道のりが民主の前には広がっている。

○December 2012 General Election?

(二〇一二年十二月十五日)

すったもんだの末、実現した総選挙。投票日もいよいよ明日。メディアの報道によれば、自民圧勝は動かないようだ。自民単独でも過半数の勢いというから、それに公明が加われば、衆院の覇権は完全に自民の手に。この際圧勝してもらった方がいいかも。自民が膨らめば、分裂するのは事の道理だろう。すでに安倍総裁と石破幹事長の中はすつきりし

ていない風。あんな右傾化路線で国民はついていくのか？選んだ有権者、とくに、若い人が多いといわれている。小泉さんのときにも若い人が熱狂的に支持した。そのつけはどうだったのかぜひ吟味してもらいたい。しかし、この失われた20年はまさに若い人たちにとって厳しいものだった。そしてそれはまだ、続いている。60年安保、70年安保のときだったら恐らく革命とまでいかなくても暴動が起きていただろう。しかし、その後私たちが日本人は牙を抜かれてしまった。そして今がある。

余りにも一方的な結果になれば、夏の参院選で揺り戻しがあるだろう。公明党もこれだけの右傾化路線を自民が突っ走れば、ついて行けないはずだ。かくしてまた、不安定な政治状況が続く。原発反対の日本の未来は惨敗しそうだが、そこから立ち上がってなんぼの

世界だ。女性党首に期待したい。では16日の審判を今は静かに待ちたい。

○真珠湾攻撃から七十一年目ですか

(二〇一二年十二月八日)

千島列島の単冠湾に集結した日本帝国の連合艦隊は、日米交渉が決裂した場合は開戦ということ、発進し、案の定日米交渉が決裂したため、1941年12月8日(日本時間)米国のハワイ・オアフ島の真珠湾に突入(米国時間では12月7日)、戦艦「アリゾナ」などを撃沈させた。日米間の太平洋戦争はかくして始まった。

チャーチルの「第二次世界大戦」(The Second World War)によるとこうだ。ラジオをつけたらすぐに9時のニュースが始まった。ロシア戦線や英軍のリビア戦線のニュースが流れ、最後にハワイでアメリカの船が日本に

よって攻撃された。また日本は蘭領東インド諸島で英国の船を攻撃した、というニュースが流れた。すぐにチャーチルは米国のルーズベルト大統領に電話した。「大統領、一体、日本はどうしたんですか？」とチャーチル。「その通りなのです。きやつらは真珠湾を攻撃したのです。我々はいまや同じ船に乗り合わせているちゆうことです」。さすがに大英帝国のチャーチルだけあって大喜びなどしないが、その抑えたタツチに彼の内心、「ああこれで大英帝国は救われた」という気持ちも伝わってくる。

アメリカも英国も真珠湾攻撃については全く知らなかったというわけだが、これはまだ歴史上のミステリーとしてこれからもいろんな議論が交わされそうだ。ただ、状況証拠的に言えるのは、米国は、ルーズベルトはナチスドイツに苦しめられている英国を助けるべ

く欧州戦線に参加したかった。しかし、議会議が簡単には参戦を認めない。中国で泥沼の戦線に引きずりこまれている日本を戦争に誘い込めば、日独伊三国同盟との関連で欧州戦線にアメリカは参戦できるかも知れない、と大統領が考えてもおかしくはない。この辺は事実どうだったのか、これからの研究に委ねたい。(筆者注・ルーズベルトの責任は日米戦争はなぜ始まったか、チャーلز・A・ビアード著を筆者は現在読んでいるところです)

この戦争は原爆投下と言う人類にとって恥ずべき所業によって終わった。しかし、アメリカは自らの所業のひどさを顧みもせず、いまだに日本に請求書を送り続けている。それは日米安全保障体制であり、その細かい一部として地位協定がある。沖縄の基地がある。オバマ大統領はアジア重視に舵を切ったという。それってなに？要するに欧州の経済はだ

めだし、中東は難しいし、南米はほとんどがアメリカ嫌いだし、結局世界の成長地域のアジアしかない、その成長ぶりに落ちぶれたドル帝国はさすがにかなってことでしょう。それを米国がアジア、日本を重視してくれているのではないか、と言った日本の論調は本当に情けない。アメリカがどうこうじゃなくて、日本はどう生きるべきかを考えるべきだ。アメリカは最終的には日本のことなど考えていないし、また、そんなことをアメリカに期待するなんて最低の国家だと思ふ。かくして日本は総選挙の最中なのであります。合掌。

○解散に踏み切ったドジョウ首相

(二〇一二年十一月十五日)

解散の期日は明示しないという鉄則を無視した野田首相の16日解散宣言は、正直言って度肝を抜かれた、と言うのが大方の印象だ

ろう。週末博多でラーメンをうまそうに胃袋に入れていたその勢いだろうか。いや、博多に行く時点で腹を決めていたのではないか。

とにかく14日の午後、国会の党首討論は久しぶりに政治の醍醐味とその厳しき、決断と云うようなことを十分に感得させられた。

現職首相の決断はやはり迫力十分だ。思えば、興石幹事長がけんもほろろに首相との会談から出てきたときにこの解散は決まっていたのだらう。その翌日の民主党内に早期解散に反対の意見多数と言うのは、ガス抜きにすぎない。この選挙で自民が勝つか、民主が持ちこたえるかはわからない。しかし、いわゆる第三極がクローズアップされすぎるような子供の時間は過ぎ、いよいよ戦争に突入で、待つたなしにその結果は12月16日に出る。望むべきは事ここに至っては民主党内まとまって選挙に臨むべきでしょう。TPPを心配す

る山田議員もここらで矛をおさめてはいかがでしょうか。

○醜悪なオスプレイ

(二〇一二年六月十六日)



オスプレイが普天間に配備されると聞き、アメリカの無神経さにいささか唾然としていた。モロッコで墜落、その原因調査も待たず、配備受け入れを表明していたのが新しく防衛相になった森本敏さん。これには愕然とした。議員でない民間人が防衛大臣になるのはいかなものか、と言う懸念が話題になったが、私は民間人でもいい、と思う。それよりアメリカの言うままになるのが、日米関係の深化と信じているその浅さ、品のなさが我慢ならないのだ。それは防衛大学出身だから前任の田中さんより防衛とそれを取り巻く問題に通

暁しているのは当然だろう。確かに田中さんには至らない点が多かっただろう。しかし、それはかれをこのポストに選んだ首相の方に責任がある。田中から森本へ。こう言うのを「羹に懲りて膾を吹く」とでもいうのでしようか。ちよつと意味が違うかもしれないが、野田首相の場当たりの対応もこれまた品がない。

そこへフロリダ州でオスちゃんまたまた墜落事故。乗組員5人は命に別状ないそうだが、空軍は墜落現場に危険な物質が残留しているおそれありと警告（15日朝日夕刊）。なにやら怪しい。こんな欠陥軍事製品を堂々と世界中で乗り回そうと言うアメリカの神経を疑う。この世界一の大国のいろんな意味での劣化は、深刻だ。

その夕刊記事によれば、藤村官房長官はこの事故を受けて沖縄への配備計画の見合わせ

をアメリカに要請はしない、と明言。一方で「米政府にできるだけすみやかな情報提供をもとめており、その間は配備に向けた手続きを当面留保する」と説明。なんのこっちゃ、結局、当面見合わせますよ、とアメリカに言っているわけだ。なんでもっと率直に、こんなに事故続きでは、配備は難しい、といえないのだろう。アメリカへの配慮が優先し、われわれ善良なる、おとなしい国民にアピールする必要はない、とこのとっちゃん坊や風の官房長官は考えているようだ。今の民主党政権、野田政権の勘違いぶり、結局国民をなめきっている態度、本人たちは全くそうは思っておらず、民意を大事にした謙虚な政権と信じているから始末が悪い。

森本さんの話だったですね。いずれこの仁もボロを出すだろう。論じるに値しない。沖縄の仲井真弘多知事は宜野湾市長とともに上

京して配備撤回を政府に申し入れるそうだと。当然だろう。いつもつらい目に遭っている沖縄の指導者に気の毒に思うが、これに反対せず黙って受け入れたらこれまで積み上げてきた沖縄の反基地への取り組みはなんだったのかと問われかねない。野田さんはオスプレイどころではない修羅場を迎えそうで、それについては次のブログで。

○続・醜悪なオスプレイ

(二〇一二年七月二日)

前々回の小生のブログ(6月16日)の醜悪なオスプレイで指摘したことがやはり現実のものとなり、この問題はこれから論議を呼ぶ。

森本氏を防衛相に選任したときからこのような悲惨な、お粗末な仕儀に相成ることは見えていた。このおっさんは(森本氏)は全く

政治的な感覚など期待できない人物だ。ひたすら日米安保が最優先と言っていけばいいという御仁だからだ。しかし、これは選んだ方が悪いと指摘していたら7月1日の朝日三面で野田首相は「なんとと言っても日米安保が軸だ。米国がアジア太平洋地域に回帰している動きは歓迎すべきことだ」とのたもう始末。本気で思っているの。アメリカが東アジアから疎外されるのを一番恐れており、それに助け舟を出したつもりなの。

信頼していない玄葉外相ですら「米側に言うべきことを言った方がいい」とこのオスプレイ問題で主張したというのに、野田さん、あなたはだめだね。沖縄県知事や普天間の宜野湾市長が本気で配備反対しているのをどう考えるの。これ以上沖縄の傷の痛みに平気で塩をこすり付けるの。その感覚のひどきは正視にたえられない。
(元KKKB専務)